

# 収入向上・女性自立

## ビラーン民族の伝統織ナバルタビの継承及び収入向上の支援

5年前の会報に「ティナラクの光沢はどこから？」というタイトルの記事を掲載しました。会員の相田さんによるこの会報68号のティナラク織最終工程の詳細は、今も各イベント会場で、来場者からいただく「この光沢は何かコーティングしているのですか？」等の質問に答える上で大変役立っています。また、出展の際は仕上げの道具であるタカラ貝を必ず用意することにしています。

一方で、ビラーン民族のナバルタビ織の方は、素材、製法ともにティナラク織と大きな差異はないものの、光沢はありません。相田さんによると、「10年前、今は亡き熟練織り手のナバルタビを初めて見た時は、光沢がなかったので、もともとタカラ貝による工程はないのではなか」とのことです。

ナバルタビ織の繊細なデザインの愛好者は年々増えていて、会員で縫製ボランティアの安井さん創作の2段ポケット付ポシェット（右写真）やトートバッグは、昨年度も一番人気の製品になりました。



前号でもお伝えのように、今年度はこのナバルタビ織継承者育成に力を入れることになり、これまで各種事業で協力いただいた「NPO法人WE21ジャパンみどり」に対して、再度助成をお願いしました。幸い、支援決定をいただくことができ、現地では4月初め、「織の家」の修理を再開しました。また、織り手だけでなく、より多くのビラーンの女性たちが間接的に伝統織継承活動に参加し、収入向上の機会も得られるように、ミシンを購入し、ブックカバーなどの簡単なナバルタビ小物の縫製研修を事業に含めました。

上述のティナラク織の光沢の説明には、妻の織りの仕上げは力が強い夫が担当するとあります。ナバルタビ織についても、タカラ貝を使う工程を取り入れてほしいと思いますが、それは、本来のナバルタビではなくなるのかもしれませんが。



右上: 3月初めにCOWHEDから届いた光沢充分のティナラク織ブックカバー。

左下: 当団体のイベント備品、タカラ貝



自分が織り上げたナバルタビを、タカラ貝でこする今は亡きソーニャさん。レイクセブ出身のチボリですが、ビラーンと結婚、ナバルタビを織るようになり、仕上げはティナラクと同様タカラ貝を使いました



新たに、角材や板材も助成金で支援いただけることになり、窓枠などの本格的修理が始まった「織の家」

**COWHED 短 信:** 先日、元COWHEDマネージャーのジェマさんから、イースター（復活祭）を祝うメールとともに、COWHEDの現況を頂きました。

①4月上旬に、マニラで開かれたフィリピン観光省主催の物産展にジェナリンさん他スタッフが参加し、フィリピン内外に向けてチボリの伝統文化、ハンディクラフトの広報ができた。②コロナダ市役所職員他、夏季研修参加者や、夏休みにレイクセブを訪れる観光客で、今年もCOWHED店舗はにぎわっている。



販売担当のボランティアの皆さん。お勧め上手がそろっていて、売り上げに貢献いただきました。

### 3月11,12日に開催の市民活動フェア報告

主催者報告では2日間の入場者数は、3,079人で、昨年より少なかったようですが、年1回の県民センターでの出店を楽しみにして下さるリピーターの皆さんで、当団体ブースは今回もにぎわいました。

## 2016年ハンディクラフト事業報告

参加イベント数:	フェスタ、バザー	計 15 回
収入 売り上げ:	398 千円	
寄付:	20 千円	収入合計 418 千円
支出 仕入れ COWHED,NTP:	145 千円	
縫製ボランティア謝礼他販売経費:	151 千円	支出合計 296 千円
一般会計繰入		122 千円
(詳細は、本会報同封のハンディクラフト収支計算書をご参照ください)		